

新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

日山協自然保護委員総会

満山錦繡の小松原湿原で開く

環境保全、し尿対策が急務

自然保護委員長 桑原 悌治

満山錦繡の秋。去る10月19日・20日の二日間、日山協自然保護委員総会が津南町で開かれた。参加者は県外50名、県内と合わせて百余名の多勢であった。この会は毎年加盟県を順にめぐり実施され、今回は新潟県が会場となった。会議のねらいは「山岳地域における自然保護の諸問題について、検討協議し具体策を提起推進する」ということである。

日程は初日に現地視察を先行し、地元提案事項の理解を深めた。小松原湿原はいにくの雨模様であったが、見事な紅・黄等に染まり輝き、三段に点在する湿原地塘と山小屋の現状と問題点をたしかめることができた。

秋の陽は短い、こよいの宿到着は夕やみの中にあった。気ぜわしく懇親会に先だつ開会式、田中副会長の開会挨拶で始まり、地元津南町、中里村両首長の歓迎のご挨拶と地

域の紹介を頂き、百余名一堂に会しての宴となった。湿原視察の汗と思ひ、各県持ち寄る自慢の名酒をくみ交わし、秋の夜長を心ゆくまでの懇親となった。

明けて2日目、会議は各県提案事項と地元主管県提案の二つに分けて行われた。

(一) グットトイレの推進 というテーマを設定、推名常任委員の基調報告が資料にもとづきなされた後、「①施設の立地場所は適切か、②周辺環境への配慮、規模、③施設のデザインや周囲の景観、④トイレ空間の快適性、⑤し尿処理、排水処理の実態、⑥気候変動の枠組、⑦施設の美化管理対策」などに添って各委員より多くの情報、意見が具体的に出され極めて有意義なものであった。

(二) 小松原湿原における施設周辺環境の保全対策について(新潟県山岳協提案)

はじめに県自然環境保全審

新年会案内

日時 1997年1月19日(日)
12時開宴
会場 長岡市柏町 東泉閣
電話 0258-35-2046
会費 7,000円
申込 〒951
新潟市下旭町109
鈴木敏雄方
新潟県山岳協会
電話 025-222-9548
ハガキにて申込願います。

理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、理事会を開催します。
役員、理事、委員各位は10時30分までに参集願います。

議会の桶熊清治代が湿原の特性にふれ、保全の重要性を強調した報告と提言がなされた後、提案理由が述べられ検討に入る。

(提案理由)

小松原湿原は清津川の支流釜川上部、日陰山の北麓に位置し、標高13000~1600メートルにあり、下ノ代・中ノ代・上ノ代の三つの段丘上に生成された高層湿原で、豊かな自然生態系を保持する貴重な地域である。

また、この湿原は上信越高原国立公園に接する国有地内にあり、行政区域は中里村・津南町にかかわり、特に貴重なことは県の「新潟県自然環境保全地域(特別地区指定)」に指定されていることである。

近年登山者の入山が増え、

湿原への踏み荒らし、特に小松原小屋周辺が入山者による糞尿排泄で汚染され、夏期は悪臭を放ち、著しく不快、不衛生となっている。憂慮されることは小松原湿原全体が、水源涵養地域として極めて重要な機能をもつ源であり、このまま放置すると、中里村、津南町の代名詞とも言える「名水」の汚染が必至となる。

したがって早急に環境保全の具体策を講じなければ、かけがえない自然を失うとともに、住民の生活をおびやかすことになる。保全と利用、共生の生態系を護る「思いやる心」が自然保護の原点と考える。是非この会議において、皆様の知恵と同意を頂き、官民連動した積極的に具体策がとられることを願うものである。

前日の現地視察で理解し易く、「(一)の提案」をふまえ大

変有意义的の検討がなされ、更に環境企画課自然保護係の

佐藤義法主任からは「小松原は『自然環境保全地域の特別

地区指定』であることから利用を促進する施設はむづかしいが、保護を第一に考えた施設対応が必要。県としても協力したい」と述べられた。

ともあれ早急の具体策を講じなければ、かけがえのない自然を失うことになる。官民

連動した取り組みの重要性を確認提言が決まった。

(三) その他
来年度総会の会場は青森県

と決まり、以後名古屋、四国の順となる予定。
以上が本総会の寸描であるが、自然保護の問題は地域による多様性と共通点があり、より密度の濃い情報の交換と各県組織の取り組み姿勢が活動展開の成否をにぎるものであろうと考える。
末尾ながら、総会の主管運営に当たり終始強力なリーダーシップで推進された、前日山協自然保護委員長の室賀輝男氏をはじめ関係機関、団体、関係各氏より格別なるご援助、ご協力を頂き、深く感謝とお礼を申し上げます。

「安達太良山」

96中高年登山教室報告 (完)

中高年登山委員長 坂井 厚

3 講演

(1) マナーについて

峡山山岳会長 井出秀雄
マナーは日常茶飯的に問われている問題であり、登山としてのマナーでは登山届の必要性、その中から日程・持ち物等計画面で汲み取られるもの、登山行動中のものや国立公園等におよ

び、マナーの広さ深さの面で述べた。
(2) 地図について
むささび山の会
遠藤家之進正和
地図の種類・表現・高さの原点・見方と利用方法を概要として述べた。
再度委員長からは、今回の

参加では女性が多数であることとで開校式を終わる。リーダー役員に諸事項連絡後、各班毎にミーティングがあった。なお、夕食前に駆け付けた医師(開業内科医)の紹介を行った。

第2日 9月1日(日) 曇り一時霧雨のち晴
睡眠が充分とれたので朝の行動はよく、計画時刻より早く出発。雲が低く垂れ込めた中、馬立駐車場着、班ごとに軽い体操のあと歩きだす。

左に白糸の滝を見、スキー場開発による登山道は、煩雑化を避けた地図と相違をみせている。尾根より左に硫華採取小屋にとつて下る。この付近、朝食を摂る班が多い。此所に到る前に摂る班、前へと歩を進める班、また、集団行動の立ち止まり鈍化を避け出発地で食事をなす班と、様々の対応がみられた(出発地で先頭と最後との時間差は30分)。

食事を済まして歩をどう進めるか、現在地はと地図の見方の指導が幾つか見られる。
やがて左は胎内岩、右は沼の平への分岐に到着、小沢の合流であり最後の水場、水の

流出は種々あり、少し口に含んで試してから飲用しよう、事前にリーダーに連絡しておいた。植物の観察をなす班が見受けられた。
胎内岩の手前に集団行動鈍化のネックがあった。岩場の登りで、足場の関係で補助網による手助けがあった。全体

の流れの中で肯定黙認したが、教室の性格上よろしくないその後日批判があった。
一刻霧雨があったが次第に快方になる。鉄山の非難小屋は主稜線にある。沼の平も右に見えてきた。火口底は下見登山の時と違っていた、蒸気の噴出が見られる。

安達太良山に近付くと共に青空も見られ、一般の行きかう人達が多くなる。グループ夫婦 家族連れと様々です。既に早い班は登頂を終え、復路の北側斜面で昼食を摂っている。最後班到着を待って(70分開き)、下山の出発時間

繰り上げを告げる。
下山山頂直下の出発では約10分の差、主稜上の峰の辻では5分の差、これは集団で連なっていることです。
峰の辻まで往路復路共、一般の人達から、私の行き先は

どう行くのぞと尋ねられた。数組あった、全部地図なし、あっても観光パンフレットでしかない。これ程観光化しているので地図不要が当然視されているのでしよう。
火口底、沼の平に入る所、ほぼ中央に蒸気の噴出があり、その北側2・30メートルに東西にケルンの道標が所々にある。リーダーはどう進路をとるか指導。有毒ガスを考慮して全ての班が、風上側ケルン路よりも更に北に、全員が20メートル以上離れて通過した。

夏の陽差しが戻ってきた中で、少しの疲れが見えているものの、終着地まで時々現在地確認の指導が行われた。
予定より早く終着地 馬立駐車場に下山(最前と最後の時間差40分程、また、最後は計画より40分程早く到着)した。

閉校式
天候が幸いし、各リーダーの良き指導で余裕ある行動がとれた、あまり疲れず下ることができた。今日の事を生涯スポーツとして、これからの山行に活かして欲しいと述べ、また、参加した名誉会長

から、中高年対策としての登山教室設置の経緯を述べた。

帰途の車内で、各自感想を述べたがアンケート内容にあるので略すが、「連れていって」ということが一朝一夕には消えないものと、印象を持ちました。

反省

1、県外への初めてということ、もしかやという事故時の対応で、支援班の設置は移動・経費の面からも難しいが、当日の友好支援を受け感謝している。

2、行程中、ネックとなった胎内岩手前の支援については、登山教室の性格上好ましくないもので余程のことがない限り、そういう支援は避けたい。

3、委員長は、やはり全体の流れを知るうえで長付き通信員が必要、次回からは確保したい。

4、70才以上は、原則としてお断りするがケースバイケースにする。

5、今夏、中央アルプスで女性の転落死亡事故の結果から参加者に対する保険の見直しを要する。

直しを要する。以上が委員会の反省としてあげられた。

結び

山岳遭難事故防止・安全登山と中高年対策の一端を担って、僅かな日を当て登山教室を実施しているが、直ぐには効果のあるものではない。

生涯スポーツとしての登山を有意義なものにするために、微力な委員会ですが反省項目を次回に活かして行きたいと思えます。

終わりに協力を頂いた各山岳会、後援を頂いた新潟県、新潟市など各行政機関及び特に大きな経済支援を受けたことに對して、笹川スポーツ財団に対して厚く御礼申し上げます。

冬山登山は気象状況の把握から

大雪の後の

“なだれ”に注意

なだれは全層なだれと、表層なだれに大別され、ほとんどの山岳なだれ遭難は表層なだれによって起きています。

表層なだれは積雪の表面に滑りやすい薄い層が形成され、冬型の気圧配置となつてまとまった雪がその上に積もった後に多く発生します。この薄い層が形成されるのは、夜間晴れて放射冷却により積雪の表面付近で雪の結晶が成長し、しもざらめ雪になった場合や、積雪の表面が融けて濡れざらめ雪になった場合などです。

表層なだれは雪煙や風圧を伴い、時速200kmを超えることも非常に危険です。年によって山岳部に降る雪の量は大きく違います。例年雪が少ない場所だからといって油断せずに、登山計画を立てるときから気象情報を利用することはもちろん、入山後も気象情報に気を配り、さらに現地での天気の変化にも十分注意してください。

登山計画書はあなたの生命を左右するザイルです

平成8年の冬山では、遭難した65パーティのうち59パーティ(90%)が登山計画書を提出しておりませんでした。◆登山計画書の提出先

◇登山地域の都道府県警察本部地域課等(北海道を除いて県庁所在地にあります)及び地元警察署、交番、駐在所。

◇山域の登山指導センターや案内所、入山口の専門ポスト等。

◇職場、学校、家庭等。

◇職場、学校、家庭等。

○万一の遭難事故が早くわかり、救助がスムーズに行われます。

○むだな捜索救助活動を省くことができます。

○自分や家族が負担しなければならぬ捜索救助費用が少なくて済みます。

○家族や関係者を安心させることができます。

これまでも登山計画書を提出したおかげで、命拾いしたという事例が数多くあります。登山計画書を提出するという事は、あなたの生命を左右するザイルであると考えて必ず実行しましょう。

常務理事会報告

日時 9月16日14時
場所 新発田市中央町1ノ1
ノ7 五十嵐篤雄宅

出席者 五十嵐篤雄 室賀輝男 鈴木敏雄 平田大六 桑原徳治 坂井厚 田辺信行 山田智子 五十嵐昇

議題
1 国体予選会報告(平田大六)
4月27日28日角田山周辺で実施した。

2 第17回北信越国民体育大会参加報告(平田大六)
7月27日28日長野県大町市順位

縦走踏査登攀総合
少年男子 3 4 3位
少年女子 4 3 3位
成年男子 5 1 5 5位
成年女子 4 2 3 3位

本大会出場は成年男子のみ
3 藤塚浜人工ボード撤去報告(平田大六)

8月11日、三面山岳会により撤去した。一部は村上市松山三面に運搬し、同所集落空地に建設し、国体山岳競技に出場する松山三面在住の選手のトレーニング場とした。撤去及び建設は三面山岳会で行った。残りの材料は、当分の間同所に整理の上保管し、関川村山の会で関川村へ運搬する予定である。

- 三面山岳会の建設したものは、建設用地が集落公共地であるため10月末をもって借用期間は終了する。その後は撤去して材料は関川村へ運ぶこととし、前述の材料も含めて、処分その他は関川村山の会へ任せることとした。
- 協会より次のものを支出した。これまでの借地及び管理謝礼として、故小林兼一郎氏家族へ5万円。同設備の撤去料として三面山岳会へ5万円。
- 4 中高年登山教室報告 (坂井厚)
- 8月31日～9月1日福島県安達太良山で実施した。参加者は107名、協会役員31名。協力団体数7。医者の確保が重要である。本来であれば3万～5万円の謝礼が必要である。
- 5 テーピング講習会報告
- 7月20日予想以上の参加数であった。
- 6 岩登り講習会報告
- 6月23日新発田市杉滝岩で実施し、参加者が年々増えてきた。約60名参加
- 7 婦人登山報告(山田智子)
- マイコミ平で実施し約70名
- 8 参加
- 新規加盟申込を承認した
- ① 三面(みおもて)山岳会 代表 小池広美 7名
- 村上市松山三面15-3
- 〒958
- ② 0254-5310124
- 広島国体の選手所属母体
- ③ 新発田市山岳会 6名
- 代表 加藤衛 〒957
- 新発田市瑞波19
- ④ 0254-3212635
- 会員の一部に下越山岳会から異動した者も含まれる
- 9 加入申込があったが承認を保留したものを
- 吉田山岳会
- 10 東蒲ハイキングクラブの退会について
- 加盟継続の意志ないので退会とする。尚、代表の大江勝広氏は、4月5日に死亡された。
- 11 自然保護登山について (桑原悌治)
- 10月19日20日津南町にて実施する。
- 挨拶は、新潟県、津南町、中里村とする。現在50人位参加申込あり。
- 12 新年会について(土田幸雄)
- 97年1月19日(日)長岡市東泉閣で行う。同時にこの日

新潟県山岳協会創立50周年記念事業

日中合同 秘境 瀾滄江源頭の未踏峰
・曲阿加吉瑪峰(5930m)登山隊
瀾滄江水源地の調査と水源地確定
学術調査隊 1997

国際的な大河、瀾滄江(メコン川)は、中国西南部、西南高原に源を発し、青海、西藏、雲南を流れ、中国国境を出てミャンマーに入り、ラオスの辺境からメコン川と名を変えて、タイ、カンボジアを経由して、南ベトナムで南シナ海に注ぎこんでいます。

この、メコン川の源頭地域の行政区は、中国青海省玉樹藏族自治州で、外国人未解放地域であります。

今回、新潟県山岳協会へ特別許可が与えられ、入城が可能となりました。

標高4500mのこの地帯は、交通アクセスの不便から、手つかずの自然が残っていて、野生動植物の世界であります。現地に行ってみなければ、何が飛び出すか予想もつきません、またとない機会であります。

新潟県山岳協会創立50周年の節目に、新山協の加盟団体の皆さんと一つの、歴史をつくってはみませんか。

登山計画の概要

- 1 主催 新潟県山岳協会
- 2 目的 新潟県山岳協会創立50周年記念事業として、日中友好と交流の発展のため、合同学術調査と登山を行う
- 3 目標 ①メコン川の水源地の踏査と確定、野生動植物の共同調査 ②未踏峰 曲阿加吉瑪峰(5930m)の登頂
- 4 期間 1997年7月末～8月20日
- 5 費用 約50万円
- 6 申込 希望コース(①②の別)・氏名・性別・生年月日・連絡先・電話・所属山岳会を連絡願います。
- 7 申込期日 平成9年1月20日(月)迄
長岡市学校町3-11-7 藤井 信
TEL 0258-32-4835 FAX 0258-32-4835
留守の場合は、FAXでお願いします。尚、詳細の打ち合わせについては、後日、参加者に連絡します。

- 理事会も行う。
- 13 広島国体応援行について
- 藤井信副会長の統括で応援団を編成する。
- 14 第19回北信越国体山岳競技について(1998年)
- 第19回は、新潟会場になる。人工岩場の建設は今のうちから県当局に当たっておく必要がある、山田智子理事に話をしておいてもらいたい。候補地としては、関川村、六日町、湯之谷村をあげる。
- 15 協会50周年行事(藤井信)
- 年末までには考えておく必要がある。
- 16 韓国晶元山岳会(藤井信)
- 同会の代表の母が癌にかかっていて、薬を買うための資金集めをしている。
- 17 文部省中高年大会参加旅費について
- 25000円位はかかる
- 18 JAC越後支部50周年について
- 9月28日29日大湯温泉、駒ヶ岳で実施し、100名位の参加を目標にしている。
- 19 会議終了後、同所において五十嵐篤雄名誉会長より、酒肴のものをいただいた。

登山用品専門店

信頼できるパートナー

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736